

Title	体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究
Sub Title	Research on the safety and competitiveness improvement of university players
Author	鳥海, 崇(Toriumi, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>慶應義塾大学体育研究所では2021年度よりスポーツサイエンス構想という名目で、体育会及びスポーツ医学研究センター、そして他キャンパスに所属するスポーツに関する研究・教育を行う教員・学生を有機的に結びつけ、慶應義塾におけるスポーツの研究・教育の中心となるべく環境を整えることとなった。そこで本研究では、体育研究所に所属する教員でスポーツサイエンス構想の中核となるグループを構成し、体育会部員の安全性向上(マウスガード利用の実態調査)及び競技力向上(体組成及び心理測定を通じた競技力のシーズン変化)の研究推進を目的とした。</p> <p>研究内容を大きく二つに分けた。一つは体育会部員のマウスガード利用の実態調査である。口腔部周辺における受傷防止を目的としたマウスガードの利用が、体育会部員に対してどの程度浸透しているかについて、競技別に調査を実施した。二つ目は体育会部員の競技力向上の研究である。体育会部員(野球部及び剣道部)の体組成及び瞬発力を継続的に調査し、そのシーズン中の変化を調べ、競技パフォーマンスとの関連について調査を実施した。また同様に、個人種目の体育会部員(水泳部競泳部門)の心理状態の変化を継続的に調査し、競技パフォーマンスとの関連を調べ、競技力向上のための基礎資料とした。</p> <p>体育会部員の安全性向上は、大学スポーツの最重要課題である。体育会部員の競技力向上に関しては、各競技部の指導スタッフが日々指導しているが、体組成や瞬発力、心理状態の変化は、測定に設備や技術が必要となるため、主に国際大会に出場するようなトップレベルの選手のみを対象に調査研究が進められてきた。しかしながら今回、対象を大学生に広げたことで、これらの変化と学生生活との関連等について明らかにし、大学スポーツの質の向上に繋がるものと考えられる。</p> <p>The Keio University Institute of Physical Education connects the sports association, the Sports Medical Research Center, and the faculty members who conduct research and education on sports belonging to other campuses from 2021. It was decided to prepare the environment as much as possible to become the center of sports research and education. Therefore, in this study, faculty members belonging to the Institute of Physical Education form a group that is the core of the sports science concept, and improve the safety of the university players and improve competitiveness (body composition and psychological research).</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=202100004-20210029

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	体育研究所	職名	准教授	補助額	1,450	千円
	氏名	鳥海 崇	氏名（英語）	Takashi TORIUMI,			
研究課題（日本語）							
体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究							
研究課題（英訳）							
Research on the safety and competitiveness improvement of university players							
研究組織							
氏 名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
鳥海崇 (Takashi TORIUMI,)		体育研究所・准教授					
須田芳正 (Yoshimasa SUDA,)		体育研究所・教授					
坂井利彰 (Toshiaki SAKAI,)		体育研究所・准教授					
奥山静代 (Shizuyo OKUYAMA,)		体育研究所・准教授					
永田直也 (Naoya NAGATA,)		体育研究所・専任講師					
稲見崇孝 (Takayuki INAMI,)		体育研究所・専任講師					
福士徳文 (Norifumi FUKUSHI,)		体育研究所・専任講師					
石手靖 (Yasushi ISHIDE,)		体育研究所・教授					
山内賢 (Ken YAMAUCHI,)		体育研究所・教授					
吉田泰将 (Yasumasa YOSHIDA,)		体育研究所・准教授					
加藤幸司 (Koji KATO,)		体育研究所・准教授					
1. 研究成果実績の概要							
<p>慶應義塾大学体育研究所では2021年度よりスポーツサイエンス構想という名目で、体育会及びスポーツ医学研究センター、そして他キャンパスに所属するスポーツに関する研究・教育を行う教員・学生を有機的に結びつけ、慶應義塾におけるスポーツの研究・教育の中心となるべく環境を整えることとなった。そこで本研究では、体育研究所に所属する教員でスポーツサイエンス構想の中核となるグループを構成し、体育会部員の安全性向上(マウスガード利用の実態調査)及び競技力向上(体組成及び心理測定を通じた競技力のシーズン変化)の研究推進を目的とした。</p> <p>研究内容を大きく二つに分けた。一つは体育会部員のマウスガード利用の実態調査である。口腔部周辺における受傷防止を目的としたマウスガードの利用が、体育会部員に対してどの程度浸透しているかについて、競技別に調査を実施した。二つ目は体育会部員の競技力向上の研究である。体育会部員(野球部及び剣道部)の体組成及び瞬発力を継続的に調査し、そのシーズン中の変化を調べ、競技パフォーマンスとの関連について調査を実施した。また同様に、個人種目の体育会部員(水泳部競泳部門)の心理状態の変化を継続的に調査し、競技パフォーマンスとの関連を調べ、競技力向上のための基礎資料とした。</p> <p>体育会部員の安全性向上は、大学スポーツの最重要課題である。体育会部員の競技力向上に関しては、各競技部の指導スタッフが日々指導しているが、体組成や瞬発力、心理状態の変化は、測定に設備や技術が必要となるため、主に国際大会に出場するようなトップレベルの選手のみを対象に調査研究が進められてきた。しかしながら今回、対象を大学生に広げたことで、これらの変化と学生生活との関連等について明らかにし、大学スポーツの質の向上に繋がるものと考えられる。</p>							
2. 研究成果実績の概要（英訳）							
<p>The Keio University Institute of Physical Education connects the sports association, the Sports Medical Research Center, and the faculty members who conduct research and education on sports belonging to other campuses from 2021. It was decided to prepare the environment as much as possible to become the center of sports research and education. Therefore, in this study, faculty members belonging to the Institute of Physical Education form a group that is the core of the sports science concept, and improve the safety of the university players and improve competitiveness (body composition and psychological research).</p>							
3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
Yoshida, Y.	Body composition of collegiate kendo players.	J Sports Med Phys Fitness	2021.6				